同窓会報

（第 47 号）

発 行：〒260-0853
千葉市中央区葛城１－５－２
千葉県立千葉高等学校同窓会
同窓会長　鈴木一郎
TEL. 043-239-5550
FAX. 043-239-5551

印 刷：有限会社 プリントピア
TEL. 043-233-9671

―同窓会報を思う―

同窓会会長　鈴木一郎（昭和35年卒）

千葉高同窓会の皆さまには、ご清祥にて新年をお迎えことと思います。今上天皇が平成31年（２０１９年）４月30日に退位されることが決まり、今年は、平成の最後の年とも言ってよいでしょう。

残念なことに地球上ではいたる所で紛争が絶えませんが、幸いにも日本では「平成」に込めた願いのように戦争のない平和で時代でした。平成30年（２０１８年）は退位と即位の準備の年です。落ち着いた穏やかな年であって欲しいものです。

さて平成29年（２０１７年）の「今年の漢字」には「北」が選ばれ、12月12日の「漢字の日」に京都、清水寺貫主の揮毫によって発表されました。国際的非難を無視して核実験やミサイル発射を繰り返すとんでもない「北」の国が大きな話題になった一年だったのでしょうか。辞書漢字源でみると「北」の字は、「２人のひとが、背を向けてそむいたさまを示すもので、背を向けてそむくの意」とあります。同窓会とは正反対、同窓会は「絆」でしょう。

ちなみに平成23年（２０１１年）の漢字は「絆」でした。

昨年も各地の葛城会にご案内をいただき、私もいくつかの葛城会に参加させていただきました。東京葛城会のように１００名近くの者が集まるかなり盛大な会から、参加者十数名のこじんまりした会まで様々ですが、同じ学窓を出た者同士が昔を懐かしみ、旧交を温めながらお互いの近況を語り合う姿はどこも同じです。限られた時間はアッと言う間に過ぎて、最後の校歌斉唱でお開きになるのが定番です。同窓の絆と言うものは不思議で自然な人情のようです。

千葉日報に「おもしろ半島、ちばの地理再発見」という連載記事が掲載されています。その中に「X線治療の先駆者　宮原立太郎」と言う記事がありました。

職業上も興味を惹かれましたが、立太郎が千葉中卒業と言う事でがぜん宮原立太郎に興味を持ちました。記事によると宮原立太郎は明治11年（１８７８年）、現在の市原市の生まれで、千葉師範附属小学校を経て明治30年（１８９７年）に千葉中を卒業しています。

そして千葉大医学部の前身である第一高等中学校医学部に入学、明治34年（１９０１年）に千葉医学専門学校となった同校の最初の卒業生として卒業しています。そののち米国に留学して、黄熱病で有名な野口英世と親交を深め、ニューヨークでは英世と同じ下宿生活を送っていたそうで、帰国後は英世が心配する母親を福島に訪ねて、面倒を見たとも書いてありました。

明治40年（１９０７年）東京の芝で帝国胃腸医院を開業し、民間では初めてドイツからX線器機を購入し、盛んに臨床に利用したとされています。今でこそ一般撮影装置は遠隔装置になり、どこでも簡単にCT検査の受けられる時代ですが、当時は先進的なもので「X線治療の先駆者　宮原立太郎」と言う記事になりました。自身はX線障害により手指に癌が発症し手指を切断、53歳でこの世を去っています。

そのころの米国留学は今とは比べ物にならない大変な時代だったと思います。立太郎に関してもっと知りたいと思い検索した結果、市原市教育委員会編の「X線医学会の先駆者　宮原立太郎」の単行本が出版されていましたがすでに絶版でした。

さて同窓の絆を更に深くするのがこの同窓会報です。同窓会にはいろいろな事情で参加できない人も多くいるだろうし、参加できなくても友の消息を知り、クラブ活動の現況を知ることは楽しい事です。

そんな同窓会報をなるべく多くの人に届けるために、一昨年より会報に振り込み用紙を同封しご寄付をお願いしています。多くの同窓生の賛同を得て、今年も６５００部の会報を印刷し、総会や各葛城会で配布するとともに、１５００部を直接郵送することが出来ました。会報をまとめることも大変な労力ですが、学校のＯＢの先生方や編集委員の皆さんのお骨折りで、記事もだいぶ集まるようになり、内容も充実してきました。

今までの同窓会報の題字は故種谷扇舟の作と言われています

会報第47号 もくじ

会報を思う……会長 鈴木一郎 1
校長報告……学校長 鈴木政男 2
千一夜会と葛の花会……葛の花会長 永田忠以 3
就任あいさつ…副会長 林孝二郎 3
事務局近況…事務局長 阿佐幸雄 4
支部だより…… 5
若手交流会報告…… 9
OB会だより…… 10
学年短信…… 13
成人記念同期会…… 20
葛城人脈③ 宝川紘司さん …… 22
同窓会支援事業
社会人講演会…… 24
葛城だより・編集後記…… 24

が、これまで筆者名が掲載されないまま継続してきました。

この度現在活躍している書道家で、しかも木更津葛城会の会長である辻元大雲(洋一、昭和37年卒)氏に改めてこの題字を書いていただきました。辻元氏は種谷扇舟に師事し、現在は毎日書道会理事、書道芸術院理事長などをされており、昨年の第69回毎日書道展では、最高賞の文部科学大臣賞に選ばれました。同賞は毎日書道展に出品された役員から一般公募の作品まで、全作品から選ばれる同展の最高賞とされています。

この会報第47号からの題字は辻元大雲の書となりました。ご案内のように千葉高同窓生には古く明治の時代から現在に至るまで政界、経済界、芸術、文化、スポーツなど多方面で多くの人材が活躍しています。そのような情報交換の場として、この同窓会報が広く行き渡り、同窓会の発展と、そして母校の邁進に寄与するものとなればと思います。

校長報告

校長　佐藤　宰

千葉高等学校同窓会の皆様には、益々御健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃から本校の教育活動に御支援を頂いておりますことに改めて感謝申し上げます。

平成29年4月に赴任しました佐藤宰（さとう　おさむ）と申します。微力ではありますが、校長として精一杯努めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私にとって千葉高校の勤務は初めてであることから、千葉高校についてできるだけ多くのことを知りたいと思い、千葉高校の関係者の方々からお話をお聞きしました。同窓会の支部等の会合にも参加をさせてもらい、多くの先輩方とお会いすることができました。どの会合でも、暖かく迎えて頂き、かつ貴重なお話をお聞きすることができました。

会合では、旧制千葉中学校・千葉高校での学生生活はもちろんですが、通学途中のエピソードなども話題にのぼっておりました。その中で、多くの大先輩が、本千葉駅から県庁を通って通学したと話していました。私は、なぜ本千葉駅から県庁を回って登校するのか不思議でなりませんでした。

今は、本千葉駅から警察本部（かつて千葉市役所があった場所）の脇を通って、または住宅地の中の細い道を通って通学しています。よくよく聞いてみると、当時、本千葉駅は、現在の京成千葉中央駅付近にあったとのことです。そう明かされると、納得がいきました。（後日調べたところ、昭和33年1月に移転したことが分かりました。）

また、会合では、旧制中学校校歌、千葉一高頌歌、千葉一高学生歌なども披露していただきました。どれも、歴史を感じる崇高な歌でしたので、何かの形で残したいものだと感じました。

先輩方は、今でもそれぞれの地域の中心となって活躍されており、その生き生きとした姿には千葉高生の誇りとプライドを感じましたので、何かの機会に在校生に話したいとも思いました。

本校では、「総合的な学習の時間」等において、各界で活躍している先輩をお招きして、最新の事情や進路上の心構えについて講演していただいております。今年度も、多くの先輩の協力を得ることができました。

6月の一年総合学習・外部講師講演会では、永松治夫様（昭和50年卒）から海外で勤務された経験を踏まえたお話をしていただきました。その際、同学年の園部創様、國吉俊治様、遠藤保匡様にもおいでいただきました。

10月の2年総合学習・外部講師講演会では、地域に根ざした歯科医療をされている岡崎真様（平成元年卒）が講師7名を紹介し、平井勇一様（昭和63年卒）、松永正弘様（平成元年卒）、中川篤史様（平成2年卒）、東寿浩様（平成12年卒）、佐々木俊介様（平成12年卒）、小野口玲菜様（平成18卒）もそれぞれの在校中、進学先、現職などを自己紹介されました。

そののち分科会に分かれて履修歴、進路選択や職歴、現職の内容などをお話しいただき、選んで参加した生徒たちの熱心さも印象的でした。

また、「大学の先生による模擬授業」にも協力をいただきました。9月には、田中宏一様（昭和58年卒）が医学部の模擬授業を、11月には伊藤剛仁様（平成7年卒）がプラズマ応用に関する模擬授業を実施してくださいました。

11月には、さらに千葉中の総合学習において、サカイ優佳子様（昭和56年卒）から食に関する講演をいただきました。サカイ様には、東京葛城会でお会いし、講演をお願いしたところ、快く御承諾をいただきました。

他にも、間接的に本校生徒のために協力をしていただいた先輩方もいらっしゃいます。この場を借りてお礼申し上げます。

また、来年度も、引き続き本校生徒の教育活動の充実のために同窓会の皆様の御支援、御協力をよろしく願いいたします。

ところで、千葉中学校は、来年度、創立10周年を迎えます。千葉中学校は平成20年（２００８年）に県立の併設型中高一貫教育校として開校しました。来年度、10周年の節目の事業の開催を予定しており、本年度中に同窓会、ＰＴＡ及び学校の代表者を中心に「実行委員会」

を立ち上げる予定です。そこで、事業の内容や日程等について具体的に話し合いたいと考えております。同窓生の皆様にも本事業に対し御理解をいただき、多面にわたる御協力をお願いすることとなります。どうぞよろしくお願いいたします。

千一夜会と葛の花会

葛の花会会長　永田忠以（昭和37年定卒）

以前ご紹介をさせていただいたことのある「千一夜会」について、もう少しお話をさせてもらおうと思います。母校夜間部の先生方の間で年に一度、在校教職員と新任の教員との歓送迎会がありました。その名称が「千一夜会」（千葉一高夜間部に由来）であり、葛の花会執行部の役員も同席させていただき、共に先生方と親睦を深めさせていただいた会となります。

しかし、この会は夜間部の閉課とともに自然消滅をいたしました。そこでこの会の名称を残そうと、私が卒業した昭和37年卒業生の学年会の名前として頂戴し、なつかしくも楽しいひとときの場として現在も年に一度、会を開催しております。

さて千一夜会にて親睦を深めさせていただいた先生の中には現在、葛の花会の顧問をお願いしておりますので、その先生方をご紹介いたします。

まずご紹介するのは、美術の担当であった伊藤敏隆先生です。先生は千葉高美術館の名誉館長と池坊千葉県支部長として、ご高齢にもかかわらず現役でご活躍なさっております。続いて、化学の担当で後に事業で成功を収められた松尾大邑先生です。最近、千葉市主催の祝事の席にてお会いした折には伊藤先生同様に松尾先生も現役にて会社を見守っていらっしゃるお元気なお姿を拝見いたしました。

千一夜会も葛の花会も新たに同窓生を迎える会ではございません。いつかは消えてゆく会であります。私も後期高齢者の仲間入りをしましたが、恩師を葛の花会の顧問としてお迎えして数十年、いまだに交流を持てていることは有り難いことであります。それも両会の存在がとても大きくあります。ゆえにまだまだその火を消すわけには参りません。

恩師ともども長生きさせていただき、千一夜会また葛の花会を長く続けられるよう頑張りたいと思います。

新しく副会長に選任されました

副会長　林孝二郎（昭和39年卒）

千葉高同窓会の皆様、こんにちは。私、この度の役員改選において、平成30・31年度副会長を拝命いたしました。昭和39年卒で今年6回目の年男、72歳になります。現在は、㈱かずさアカデミアパークの代表取締役として木更津市にあるオークラアカデミアパークホテルの経営に携わっております。

同窓会の仕事には甚だ不慣れではございますが、鈴木会長を補佐して一生懸命努める所存ですので、よろしくお願いします。

〈同窓会に思うこと〉

転勤族で千葉県内に住まなかったこともあり、卒業後長い間、同窓会とは無縁の人生でしたが、50歳になり東京葛城会の幹事学年として同期の友と集まったのがきっかけとなり同窓会の良さを認識するようになりました。高校時代に知ることもできなかった同期生との交流、年代を超えての先輩、後輩との交流は異業種交流などの仕事上の益はもとより、趣味や会食などでの語らいを通じて人生の厚みを増してくれました。

同窓会の良さをもう少し早く気づければ良かったと思っております。最近は成人記念同期会が開かれるようになり一歩前進ですが、在校時から同窓会の意義を知ってもらうことや30代、40代の時に同窓会とかかわるなんらかのきっかけづくりを行うことなども意味のあることと感じます。

〈同窓会に何を求めるか〉

同窓会の主な役割が同窓生同士の親睦・交流と母校や後輩への後援であることは論を待ちません。地域や職域の同窓会や、同期会の活動が活発に行われるようになってきていますが、同窓会報や名簿の充実、事務局体制の拡充によりさらに同窓会が活性化されることを期待しております。また、将来的には、地域社会への貢献という点で活動の幅を広げていくことが課題かと思います。外部の人たちにも千葉高同窓会の活動を知っていただければ、母校の発展にもつながるものと思います。最後になりますが、これからの2年間、同窓会の発展に少しでも寄与できれば幸いです。重ねまして皆様のご指導をお願い致しまして就任のご挨拶とさせていただきます。

同窓会事務局の近況報告

同窓会事務局長　阿佐幸雄（昭和35年卒）

事務局室の必要性

平成18年に事務局長を拝命以来12年を数えます。平成19年発行の同窓会報36号に「会員の集う場確保と同窓会講演会の充実」というタイトルで年度の目標を書いています。（同窓会ホームページを参照）

事務局室の整備は事務局を支えてくれているOBの先生方や母校を訪れる同窓会員の方々が、集える場所にすることも目的ですが、本当は同窓会の資料の散逸を防ぐことにあります。

120周年から130周年まで5年毎の同窓会名簿を編集委員長として発行しました。最後の130周年名簿に初めて歴代同窓会長名簿を掲載しましたが、資料収集で困難を極めました。

総会資料には役員改選時に役員名簿が記載されていますが、事務局室がないので、その総会資料は、事務局のOB職員の机の中に保管され、退職時に次の先生に引き継がれていたようです。

戦後、同窓会が組織化されたようですが、そのようなこともあって、歴代会長名簿を作成した先輩は大変苦労をされていました。

事務局室の整備状況

平成25年に高岡校長先生の計らいで、記念館の中に半部屋だけでしたが同窓会事務局室の使用許可を得ることができ、爾来少しずつですが、事務局室の整備を行ってきました。

平成25年にスチール書庫と事務机と椅子の購入に始まり、平成27年にエアコンとLED電灯の設置、平成28年に同窓会専用の電話回線を引きNETに対応させると共に、ノートパソコンと複合プリンターを購入してFAXとWEBでの対応が出来るようにしてまいりました。少しだけ同窓会の自立が進んだと思います。

平成29年は室内の模様替えを行う予定でしたが、既存の家具や書物等の処置が困難で、何の進展もできませんでした。

本年1月の定時理事会後に事務局に役員が集まり、今後の進め方について策を練りました。

現在部屋の半分以上を占めている、大きな木製テーブルと木製書棚、スチールの書棚などを片付けてスペースを作り、集える部屋にすることになりました。

次号でそのご報告ができるものと思います。

名簿データベースの現状

平成28年12月に完成し、昨年の総会担当の50年卒により試用を開始した名簿データベース（以下DB）ですが、平成29年卒の名簿の取り込みと同時に、4月より各種の改修を行いました。

当初、このDBは同窓会総会や各年度の同期会への対応に焦点を当てて作成しておりましたが、その後、支部支援のために、複数住所から検索・抽出することも出来るように修正しました。

また、事務局記載欄の他に、総会幹事年度が記載する個人データの修正記録欄、各年度が年度のみで使用できるメモ欄を追加するなどの改定を行いました。

会報配布と寄付状況

平成28年から始めた同窓会報の個別配布ですが、多くの方々のご賛同を得ており、平成29年も下記105名の方々から73万7千円のご寄付をいただきました。なお、1万円以上の高額寄付をいただいた方は太字で表示してあります。平成30年も6500部を作成し、より多くの方々にお送りする予定です。

会報寄付者一覧

（敬称略・卒年順）

【昭和28年定】
永井 信夫
【昭和28年】
安藤 伸治
【昭和29年】
市川 雅夫
【昭和31年】
小野 彌榮子
松村 治
【昭和32年】
井谷 延夫
小林 礼子
瀬田 寛子
松丸 秀邦
【昭和33年】
磯村 義行
板倉 章治
榎本 敦夫
大和田 恭
片岡 善藏
片倉 透
増田 豁
村山 輝
【昭和34年】
浅井 倶子
高橋 常雄
外山 孟
藤本 治宏
【昭和35年】
猪野 勝昭
金杉 光明
佐藤 脩
坂井 紘子
鈴木 信一
高橋 恒久
南部 泰志郎
藤野 武美
森岡 弘夫
【昭和36年】
伊藤 東
加藤 忠良
北島 康史
櫻井 恭子
富樫 長昭
【昭和37年】
駒井 隆子
仲村 大恵
藤田 彰
【昭和38年】
宮原 忍
河西 亨
高谷 充之
長谷川 和敏
舟橋 治子
【昭和39年】
浜野 邦雄
伊澤 勝行
伊藤 兼六
大野 敬三
木村 光男
北原 平和
小池 啓嗣
桜井 敬子
妹尾 陽子
田波 秀文
樋田 英剛
遠山 薫
長谷川 章
兵頭 博子
藤倉 國男
本間 隆夫
【昭和40年】
【昭和41年】
鴨 哲登志
齋藤 友博
中澤 明
【昭和42年定】
高石 功
【昭和42年】
伊藤 博史
並木 厚
【昭和43年定】
松原 章
【昭和43年】
岡野 英男
勝田 信一郎
早川 廣美
槇 一光
【昭和44年】
西山 恒夫
【昭和45年】
岡田 美樹
齊藤 泰嘉
関根 新
【昭和46年】
小島 晶
湯川 昌彦
【昭和47年】
加瀬 直樹
高瀬 美咲
寺田 俊昌
藤田 新
矢澤 孝文
【昭和48年】
石井 裕子
【昭和49年】
倉沢 由和
藤縄 和代
梁瀬 朗生
【昭和50年】
大倉 宏
【昭和52年】
竹澤 容子
【昭和53年】
児玉 信一
内藤 栄男
【昭和55年】
森川 純行
【昭和59年】
小池 靖
【昭和60年】
矢口 宏
横田 淳
【昭和61年】
石原 佐智子
【平成2年】
岸 雅人
【平成4年】
稲田 恵美
【平成11年】
蓮見 高円
【平成12年】
吉本 一紀
【平成17年】
渡邉 淳
【平成18年】
戸澤 庸子
【平成20年】
石井 萌
【平成22年】
立花 義久
【平成23年】
清水 翔
【平成24年】
小林 正
中台 勇樹

支部だより

☆長生茂原葛城会

会長　宍倉正胤（昭和30年卒）

第62回長生茂原葛城会総会が平成29年10月7日、例年通り茂原市の「一茂」で開催されました。第62回と言うことは、昭和30年に第1回が開かれたことで、地域の葛城会の中でも一番古い歴史をもつ会だと思います。この会を立上げてくれたのは、以前にも記しましたが昭和26年卒の永野剛先輩と亡くなられた佐々木稔先輩で、幾重にも感謝したいと思います。

小生宍倉は第10回目ぐらいからの参加になると記憶していますが、当時は明治、大正生まれの大先輩も元気で、飲兵衛も多く二次会も盛大に行なわれていました。

今回は一寸参加者が少なく残念でしたが、今年も昨年と同じく、鈴木一郎同窓会長と武富恒徳教頭に臨席頂きました。鈴木会長からは、同窓会をますます充実発展させるための施策を伺いました。武富教頭には千葉中、千葉高の生徒の多方面での活躍、大学への進学状況等を詳しく説明をしていただきました。

会は最後に、例年通りに校歌、戦歌、凱旋歌を合唱し、フレーフレー千葉中、フレーフレー千葉高と声高らかに皆で叫び、会を閉じました。

なお、次年度から会長を昭和36年卒の加瀬元君にお願いすることにしました。有り難うございました。

☆東京葛城会

第58回総会

幹事代表　道添宏樹（昭和58年卒）

去る平成29年10月13日㈮に、東京葛城会の総会が開催されました。今年も鈴木一郎同窓会長、佐藤宰学校長、教員ＯＢの越川芳雄先生と鴇田忠雄先生等、豪華な来賓をお迎えすることができました。

又、今回の総会において、東京葛城会の会長を長年お勤めになられた中村浩紹様が退任され、これまで事務局長として会と会長を支えてこられた箕輪正美様が新会長に就任されました。新たな役員体制は、箕輪会長以下、高師弘子副会長、川添公貴副会長、桑野雄一郎事務局長という陣容で、満場一致で承認されました。箕輪会長は就任の挨拶のなかで中村前会長への慰労の言葉を述べられるとともに、東京葛城会の維持・発展のための協力のお願いがありました。

総会に引き続き懇親会も開催され、出席者数は１００名に迫る大盛会でした。昭和37年卒にして初めてご参加になられた方や、平成卒でまだ大学在学中の方等、幅広い世代の皆様にお集まり頂き、話に花が咲きました。

今年は新しい企画として、いろいろな分野でご活躍中の方々から活動発表を頂きました。

（独法）理化学研究所の古関明彦先生、（一社）ＤＲＹ and ＰＥＡＣＥのサカイ優佳子代表理事、千葉高若手交流会の東代表、そしてパナソニック㈱の高山美和主幹から、非常に興味深いご講話を頂くことができました。今後も、東京葛城会が末永く、皆様の架け橋になっていくことを願います。

なお、当日は、出席していた同期で、二次会を兼ねて同窓会を開催しました。こちらも大いに盛り上がりました。

☆東金葛城会

幹事　岸本雅邦（昭和39年卒）

第39回東金葛城会の総会は、平成29年4月20日東金の割烹志津本で18名の出席をいただき、来賓として鈴木一郎同窓会長、阿佐幸雄事務局長、佐藤宰学校長をお迎えし、和やかな雰囲気の中で開催いたしました。

ご来賓の方々より、学校・同窓会の状況をお聞きし、今の学生さんの頑張りが伝わってきました。又出席の皆様から近況報告をうかがい、楽しい思い出話に花を咲かすことが出来、又当日はゴルフコンペを開催し、親睦に努めました。宴の席も盛り上がり校歌を歌い、次回の再会を約束し散会となりました。

☆成田葛城会

会長　松田徹之（昭和39年卒）

成田葛城会は、平成15年11月に設立され、15回目となる総会を去る11月11日に市内「ひかたや第二支店」にて開催いたしました。

同窓会からは鈴木一郎会長と事務局の沢田茂様、高校からは佐藤宰学校長、また佐倉葛城会から山田敏夫副会長にご出席いただきました。当会会員の出席は14名と若干少なくはありましたが、御来賓の方々から同窓会や学校の状況をお聞きし、また学生時代の思い出や各々の近況報告など話に花が咲き、楽しいひと時を過ごすことができました。

佐倉葛城会から、来年度は佐倉と成田の合同葛城会開催の提案がなされているので、その方向で検討していきたいと考えています。

☆船橋葛城会

世話人代表　中山泰正
（昭和42年卒）

5月最後の日曜28日船橋グランドホテルにおいて51名参加のもと第38回船橋葛城会が行われました。

会の次第ですが、世話人代表等の挨拶の前に30分程度ミニ講座があります。今回は昭和59年卒の今泉起容子さんの楽書（らくしょ）字を楽しく表現する講話と実演をしていただきました。このミニ講座は各分野で活躍されている同窓生を紹介する目的でスタートしました。皆様の中でこれはと思う同窓生がいらっしゃれば御一報下さい。

歓談時間を1時間は確保したいのですが御挨拶が長くなると時間短縮せざるを得ません。

校歌、エールの前にお楽しみ抽選会がありますが抽選カードはここ数年「百人一首」を用いています。千葉高校らしいでしょう？心豊かな生活を送っている同窓生でも100円の物に一喜一憂する姿は微笑ましいものです。目玉の品は「次回船橋葛城会無料優待券」！世話人は別の所でストレスを解消、今年は都電荒川線沿線桜巡りとか中山競馬場馬券購入講座とか。平成30年は・・・・

（追）船橋葛城会の世話人代表が代わりました。

世話人代表　中山泰正（昭和42年卒）
事務局長　常包（つねかね）滋也（昭和56年卒）

☆佐倉葛城会

副会長　山田敏夫
（昭和42年卒）

平成29年（第16回）佐倉葛城会総会・懇親会を11月4日に佐倉市宮小路町の房州屋において開催しました。懇親会には阿佐幸雄同窓会事務局長、武富恒徳教頭、成田葛城会の松田徹之会長、船橋葛城会の中山泰正会長、東京葛城会の箕輪正美会長と多くの来賓にお越し頂きました。

懇親会では、恒例となった当会の渡辺誠治顧問（昭和27年卒）によるミニ講演会がありました。

今年は「終戦直後の旧制千葉中学校の生活」と題して、当時の校舎の有様、食料不足で「食料休校」があったこと、教科書も配給された未切断の紙を自分たちで綴じて製本したこと、試験用紙がないため倉庫にしまってあった昔の生徒の答案用紙の裏を使ったことなど、隔世の感のある当時の学生生活をお話し頂きました。

年1回の楽しい集まりですが、会員参加者は17名と少なめなのが悩みの種で、若い同窓生への参加呼びかけが今後の課題となっています。

☆千葉葛城会

幹事　秋葉直人
（昭和45年卒）

第9回千葉葛城会の総会は、7月22日ホテルポートプラザ千葉にて100名の参加を得て開催されました。

総会では佐川信夫会長（昭和33年卒）の挨拶の後、予算案など3件の議案が審議され、いずれも原案どおり可決されました。

懇親会では、ご来賓としてお迎えした佐藤校長、鈴木同窓会長にご挨拶をいただき、その後のアトラクションでは「忘れかけた母校に伝わる歌をよみがえらせ、声高らかに歌う会」と題して、沢田茂氏（昭和40年卒）池田知行氏（昭和54年卒）、中嶋大智氏（平成11年卒）のリードで「校歌」「千葉一高頌歌」「逍遙歌」「戦歌」「凱旋歌」などの母校伝統の歌を参加者の皆さん全員で歌いました。リハーサルなし、ぶっつけ本番ながら、大変懐かしい歌の数々がピアノ伴奏と元気な歌声で披露され、母校の思い出にひたる楽しいひと時を過ごせました。

千葉葛城会おなじみの、お楽しみ

み抽選会の賞品は、平成12年卒の今井茉莉さん多部美佐恵さんが会場内を回ってお渡しするおまけ付きでした。

☆養信会(葛城会市原支部)

会長　鈴木雅博
(昭和33年卒)

養信会総会は、平成29年10月28日午後4時から五井グランドホテルにおいて開催されました。当日は、台風22号の影響で雨脚の強い悪天候でしたが、佐藤宰校長及び阿佐幸雄同窓会事務局長にご出席頂き、39名の会員が3年ぶりに集いました。

当会は市原市在住または市原市と縁のある、旧千葉中・千葉高卒業生を構成員としています。名称は、市の中央を流れる養老川と南部に位置する音信山（おとずれやま）の一字ずつをとっています。

懇親会では、三宅邦弘さん（昭和39年卒）から、自ら中心的に関わっている「上総いちはら国府祭り」概要の説明があり、祭りの規模や上総国分寺七重塔の様相など、改めて歴史的知識を得ることができました。また、小出善三郎さん（昭和23年卒）と飯高和子さん（昭和30年卒）から市原市美術展覧会について紹介があり、自然の豊かさに加え、文化の香りも再認識できたと思います。最後は今井孝雄さん（昭和39年卒）のリードで校歌斉唱、お開きとなりました。

次回開催時期には、現在世界的な話題の地質時代区分「チバニアン」（市原市田淵）が、最終決定されていると期待しています。同窓会事務局の力もお借りして、若い「層」の掘り起こしと参加者の拡充に、引き続き努力していきます。

☆君津郡市木更津葛城会

幹事　三宅邦弘
(昭和39年卒)

去る11月3日、木更津ビューホテルにて3年振りに同窓会を開催。出席は、ご来賓3名と同窓生11名の計14名でした。

当日は、会場内に校歌が流れ、壁に旧校舎正面他の建物と講堂、現校舎等が諄々と投映される中、開会となり、辻元会長挨拶、ご来賓の佐藤宰千葉高校長、鈴木一郎同窓会の祝辞、阿佐幸雄事務局長の音頭による乾杯を経て懇談に移り、続く経過報告の中で7月に開催された第69回毎日書道展に出展された辻元会長（雅号：大雲）の書（久方壽満子の歌、一塊の雲）の文科大臣賞受賞が報告され、会長よりこの書をプリントしたクリアファイルが出席者全員に贈呈されました。

暫時して、各人が自己紹介し思い出を語った後、愛唱歌の合唱となり、頌歌で始まり戦歌Ⅰで大合唱となるも凱旋歌、逍遙歌では数人の声となり、学生歌では独唱となりましたが、会場は大いに盛り上がりました。

閉会間近に至り、全員起立して校歌を斉唱し、再会を約して最年長の林晴男氏（昭和31年卒）の先導手締にて散会となりました。

今回、初めて平成年代卒の根本駿輔氏（16年）と戸澤庸子氏（同）の参加を見たことは、昭和年代卒の当会名簿記載者が30数名となった現在、大変喜ばしいことで、今後、両人の協力を得て多くの若い同窓の参加を切に願うところであります。

久々の同窓会を終え、阿佐事務局長を始めご協力いただいた方々に感謝し、会の発展を祈念して一首を詠み朗誦せんとす。

千葉高同窓会
--学生歌に言寄せて--
三宅麓風

葛城の　学びの丘の友垣を
重ね結びて　集う喜こび

☆県庁千友会

会長　大塚浩雄
(昭和52年卒)

千葉県庁の職域同窓会である千友会の平成29年度の総会を11月1日に開催いたしました。

今回は、大変お忙しい中、鈴木同窓会長、門山代議士、佐渡四街道市長、武富教頭そして県庁の先輩方にもお越しいただき、全体で70人を超える参加の下、盛会のうちに終了することができました。

総会では、来賓の方々からのご挨拶や御勇退された先輩からのエールさらには新入会員からの力強い挨拶など脈々と受け継がれる千葉高校生としての気概を改めて認識することができました。

今回、新規採用職員に加えて20代の若い職員に非常に多く参加して頂きましたが、席上、その若い職員の多くから千友会を支えていく旨の発言を聞き、大変頼もしく感じたところです。

来年度以降もより多くの同窓に参加を呼びかけ、盛大に開催できればと考えております。

☆千葉市役所葛城会

会長　小早川雄司
(昭和54年卒)

千葉市役所葛城会は、現在、91名の会員がおります。平成28年度の総会は、平成29年2月15日に開催し、28名の会員が参加しました。

今回の会場は、千葉港中央港地区のケーズリゾート「ペントハウス」で、前回のカジュアルな雰囲気とは趣を変え、落ち着いた

ラウンジのような空間の中で、千葉港では初めて供用された旅客船桟橋や階段デッキのイルミネーションなど港の夜景を堪能しながらの総会となりました。

はじめに、定年退職される増田由一会長と鈴木敏也さんのお二人からこれまでの貴重な経験を振り返っていただき、我々後輩への叱咤激励を込めたご挨拶を頂戴いたしました。その後、役員の改選、退職される溝江佐子さん、新入会員の生江香さんの紹介とつづきました。乾杯の後は、歓談に入り、高校時代の話や仕事・家庭の話などに花が咲き、日頃接する機会の少ない参加者間の世代を超えた交流を深め、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。最後は、黒木和人さんの指揮により、恒例の戦歌・校歌斉唱で幕を閉じました。

☆ゐのはな一杯会

（千葉大学医学部）

会長　田邊 政裕

（昭和42年卒）

平成29年7月1日、京成ホテルミラマーレにて平成29年度ゐのはな一杯会が開催されました。会員は、千葉中学校、千葉第一高等学校、千葉高等学校を卒業し、千葉医科大学、千葉大学医学部及び医学部附属病院に在籍した、あるいは在籍中の医師および学生です。

今年度は新入生が7名加わり、卒業生32名、在学生19名が参加しました。初めに5名の昨年度物故者に対する黙とうがあり、最長老の市川邦夫先生（昭和25年卒）の乾杯で懇親会となりました。

今年度は、新たな企画として参加した学生がグループで各テーブルを巡り卒業生と「キャリア形成」について意見交換する〝ワールドカフェ〟が行われました。学生からはいろいろな質問があり各テーブルで活発な意見交換がありました。今までにない学生と卒業生の交流が生まれ、双方に満足度の高い会となりました。

☆千葉銀行葛城会

会長　池田 知行

（昭和54年卒）

千葉銀行葛城会は今年度も新たに4名の新入会員を迎え、現在、現役会員150名及びOB会員15名の総勢165名の会員がおります。平成29年度の総会は7月11日㈫京成ホテル・ミラマーレにて開催し、55名の会員の皆さまにご出席いただきました。

また、ご来賓として佐藤宰校長先生をはじめ、千葉県議会事務局長の岡本和貴さん（昭和54年卒）、京成電鉄㈱常務取締役の加藤雅哉さん(昭和54年卒)、JFEスチール㈱常務執行役員千葉地区副所長の斉藤輝弘さん（昭和54年卒）をお迎えして、世代や職場を超えて、和やかに交流している姿が印象的でした。

会では、最近の母校の様子を校長先生から詳しくご紹介頂いたほか、ご来賓の皆さまからご挨拶を頂戴しました。また毎年演奏をお願いしている千葉高校合唱部からは、合唱部員22名(引率：飯田仁志先生、伊藤毅先生、樋口奈々子先生）により、素晴らしい合唱曲を披露していただきました。

最後に、新入会員から自己紹介と決意表明があり、上原和男さん（昭和46年卒）による激励の言葉の後、参加者一同で校歌を斉唱し、お開きとなりました。

☆日立葛城会

会長　佐久間 嘉一郎

（昭和47年卒）

日立葛城会は、日立グループの千葉高出身者の同窓会です。

1990年に発足し、約30年の歴史を重ね、現在、会員数は210余名にのぼります。毎年6月頃、定期懇親会を開催し、最年長で当会名誉会長の脳外科の権威、日立病院・名誉院長の伊藤和文先生（昭和26年千葉中卒）を筆頭に、新入社員の若手まで、30名程度が集まっております。毎回、仕事の話よりも、皆、若かりし高校時代に戻って、懐かしい思い出を共有しながら談論風発、楽しい有意義なひと時を過ごしております。

聴く所によると、企業内の高校の同窓会は珍しく、日立内でも他校出身者から羨ましがられております。この背景として、企業の人事管理は最終学歴の把握のみで、出身高校は分からないことがあります。このため、当会では発足時に当時若かった我々幹事が、同窓会名簿を手掛りに勤務先が日立のOB／OGを手作業で抽出し、会員名簿を作成しました。以降、これを大事にメンテナンスしながら会の運営を継続してきました。現在では、個人情報管理が厳しくなっておりますが、名簿は会運営の基盤であり、その大元を提供いただいた千葉高同窓会には、感謝いたします。

入会資格は、日立グループ勤務だけです。未加入の方は是非、幹事まで連絡ください。

連絡先：時岡 良(昭和57年卒)
TEL：03－5471－4738
e-mail：
ryo.tokioka.ds@hitachi.com

☆清水葛城会（清水建設）

幹事長　那須原 和良（昭和49年卒）

10月27日、東京・銀座で平成29年度の清水葛城会が開かれ、清水建設㈱の現役・OBのメンバー37名のうち17名が参加した。

特に今年は、昭和29年ご卒業の石黒（宇井）敞大先輩が名古屋からわざわざご出席された。29年卒の代は、千葉高が甲子園に出場した最後の学年で、当時の様子などをお元気にお話し頂いた。

他に参加したのは、昭和40年卒の吉田和夫先輩から平成19年卒の上倉理香さんまでの幅広い年代。高校時代の懐かしい思い出や現在取り組んでいる趣味の話、そしてもちろん仕事上の話など、様々な話題に大いに盛り上がり、楽しいひと時を過ごした。

☆葛城建友会

会長　櫛部 健夫（昭和44年卒）

10月21日、葛城建友会の350回記念例会が、ホテルプラザ菜の花で開催された。昭和58年に創立された葛城建友会は、8月と10月を除く毎月例会を開催してきた。今年で35周年を迎え、350回目の例会となった今回は、毎月第3火曜日の18時30分から行なっている通常例会とは異なり、土曜日の昼に記念例会として開催した。当日は、来賓として千葉高から武富恒徳教頭先生、同窓会本部から戸谷久子副会長にご出席いただき、ご挨拶を頂戴した。またゲストとして、過去に例会講師をして頂いた神谷ちづ子さん（昭和47年卒）にもご出席いただいた。さらに、本年2月の同窓会総会当番年度幹事の須藤輝男さん（昭和51年卒）も出席され、同窓会総会への出席勧誘をされた。出席した会員は、昭和32年卒の臼井日出男先輩から平成13年卒の田中裕一さんまでの24名と、当日に入会された小出卓也さん（昭和51年卒）。またご家族も1名参加された。

例会の途中では、会員のマリリン・ブルネットさん（卒年不詳）の歌と田中裕一さんのギターによるジャズ演奏も行なわれ、記念例会を大いに盛り上げた。葛城建友会は、千葉高卒業生なら誰でも会員になれる、楽しい、そしてちょっぴりためになる会です。興味のある方はホームページをご覧になり（「葛城建友会」で検索できます）、ぜひ例会にご出席ください。

千葉高若手交流会

小林 和貴（平成23年卒）

平成29年10月21日㈯に、第7回千葉高若手交流会を内幸町にて開催いたしました。今回より幹事を引き継ぐこととなり大変心配しておりましたが、平成12年卒の東寿浩千葉高若手交流会世話役をはじめとする諸先輩方のご支援の下、なんとか無事に終えることができ、ほっとしております。平成卒の大学生・若手社会人を中心に40名程の参加者が集い、懇親を深めました。

今回の若手交流会ではランダムに参加者をグループ分けすることでなるべく多くの方と交流していただくとともに、初の取り組みとして、就活、ビジネス、子育て、勉強・研究といった共通の興味をもった参加者同士の交流も企画させていただきました。毎年恒例のPRタイムでも自分の知らない様々なフィールドで活躍する同窓の皆様の話を伺うことで、とても大きな刺激を受けました。

その後は新橋駅前のビルにある居酒屋にて二次会を開催しました。終電間際に慌てての解散となりましたが、話は尽きず、三次会に繰り出す方々も。同じ県立千葉高校を卒業しているとは言え、学年が異なると交流する機会はなかなか多くありません。若手交流会は今後も継続して開催していきます。あまり固く考えずに、一人でもご友人との参加でも皆様に楽しんでいただける、そんな会を心がけていきたいと思います。引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

○B会だより

☆野球部OB会

OB会会長　嶋田政昭（昭和49年卒）

「千葉高野球部百二十周年」

野球部が百二十歳になりました。明治30年（1897年）の創部。今回、2回に分けて記念行事を行いました。

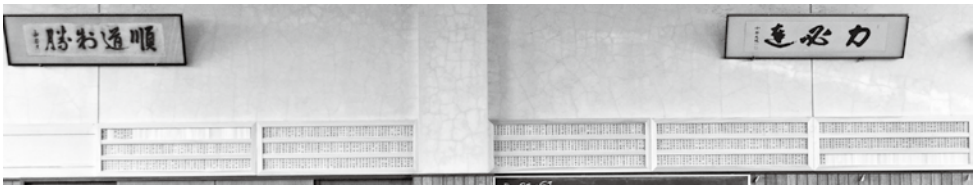
第1弾：OB野球・世代別対抗戦（硬式ボール使用）8月13日㈰千葉高のグラウンドにマネージャー含め80名強のOBが全国各地からも駆けつけてくれて集まり、20代30代40代50・60代4世代のチームに分かれて試合を行いました。久しぶりとなる硬式ボールの感触を楽しみ、好プレー・珍プレーの続出でしたが「是非、来年からもずっとやりたい」との声も多く聞かれました。

第2弾：創部百二十周年記念式典11月4日㈯京成ホテルミラマーレにて開催しました。佐藤宰校長先生はじめ元顧問の鴇田忠雄先生、大村紘一郎先生らをお迎えし、現役生徒・保護者・OB150名の参加でした。まず東大野球部の浜田一志監督に講演をお願いし、現役生徒達は熱心に耳を傾けておりました。佐藤校長先生からも激励の言葉を頂戴し、スライドショー、元監督らによる座談会、校歌・戦歌・凱旋歌を熱唱…と続き、百二十年の歴史と伝統を振り返るとともに、それをどのように活かし伝承していくか、OB・関係者の熱い想いを現役の皆さんに注入し、これからも野球部を支援し続けていくことを再確認した一日でした。

「フレー！フレー！千葉高！」

☆柔道部OB会

常任幹事　深山昭（昭和45年卒）



柔道部OBは、大正2年卒の堀部先輩を筆頭に500名余が道場の名札で確認できますが、現在、OB会から案内を送っている会員は220名ほどです。

主な活動は総会と寒稽古・暑中稽古への参加で、稽古後、参加者は食事を共にして懇親の場としています。昔から、寒稽古や夏合宿には、多くのOBが参加し、稽古を盛り上げており、昭和57年には柔道部の歴史を振り返る『85年の歩み』という冊子を作成しました。その後、活動を継続するため、『葛城柔道会』と命名、組織化し、会員相互の懇親と現役のサポートに努めています。

稽古で道場に来るたびに、諸先輩から老朽化した名札の名前が読めないという声があり、その更新が課題でした。そのため、昨年、会員から賛助を募り、昭和48年卒の一級建築士外山正さんに依頼して立派な名札額を作製してもらい、新しい名札を掛けることが出来ました。

寒稽古・暑中稽古には大学生をはじめ20名前後が参加し、現役中高生の稽古相手となっていますが、さらに、「理と技」を磨く一助として葛城柔道会現会長の吉成7段（昭和42年卒）が柔道教室を開いています。なお、吉成会長は本年、日本ベテランズ柔道大会66－69歳クラスでの優勝に続き、イタリアで開催された世界ベテランズ国際柔道大会で優勝し、通算10個目の金メダ

ルを獲得しました。

☆山岳部ＯＢ会

副会長　布施博孝（昭和46年卒）

昨年11月の総会にて役員の交代が行われこれまで長きに亘り会を牽引してこられた久山会長から中谷和博氏（昭和44年卒）に会長のバトンが渡されました。

会全体としての活動は例年、5月に会員の家族等も参加して新緑時期に行われる山行と年末に現旧顧問の先生方や現役部員数名も参加して行われる総会があります。平成29年のＯＢ会山行は5月21日、山梨県の富士急行線沿線にある倉見山（1256m）でした。参加者は7名と少なめでしたが好天に恵まれ、山頂では富士山を正面に眺めながらの昼食と歓談で楽しいひと時を過ごし、下山後は安政三年創業という葭之池温泉で汗を流してお開きとなりました。

全体の山行以外には、各世代毎、或いは世代を超えて先輩後輩とが誘い合いそれぞれの経験や体力、趣向に合った登山の形態を選びながら各自山を楽しんでいます。現役生とＯＢ会とを繋いでいるのは、若手ＯＢの合宿等への参加指導だけでなく現役生が年間の山行記録を綴りＯＢにも配布してきた部報「針葉樹」があります。昭和24年の創刊以来脈々と続いてきたこれらの過去と未来の記録を後輩たちと今後どの様に共有し引継いで行くかが近々の課題となっています。

☆バレーボール部ＯＢ・ＯＧ会

県千葉バレー部ＯＢ・ＯＧ会

幹事長　枝松宏明（昭和46年卒）

今年度は隔年開催の総会が無い年でしたが、3ヶ月毎に定例幹事会を開催しＯＢ・ＯＧ会を運営してまいりました。幹事会では、「現役支援」「名簿の充実・維持」「ホームページ運営」「現役・ＯＢ・ＯＧ間交流」等につき意見交換しました。

これらの意見交換の結果、実施した内容の一部を紹介させていただきます。

・4月には顧問（渡邊先生、松井先生）と連携させていただき、現役諸君へボール、ボールバッグ、ボールケース籠を寄贈。

・8月の合宿では現役諸君へ昼食の差し入れ、及び、顧問の先生方、若手ＯＢ（大学生）、幹事メンバー間の交流として昼食会を実施。

・ホームページでは現役の試合予定や結果の発信を開始。さらにＯＢ・ＯＧと連携を図り寄付や住所変更の連絡にも活用。

さて、現在は平成30年11月10日㈯「創部70周年の記念総会」の開催に向け準備を始めています。しかし「個人情報保護」の問題から連絡が難しいＯＢ・ＯＧが多くおられます。これを打開する一つの方策としてホームページを充実してまいりました。ＯＢ・ＯＧの方、また関心ある方は一度ホームページ「県千葉バレー部ＯＢ・ＯＧ会」（https://www.kenchiba-volley-obog.net）にご訪問頂ければ幸甚です。

☆水泳部 ＯＢＯＧ会

葛城水泳会会長　宮下賢一（平成2年卒）

平成29年9月2日、昨年に引き続き葛城水泳会総会が開催されました。水泳部では30代後半から70歳までが水球を、その前後の世代が競泳を専門としており、全世代が一堂に会する機会は久しくありませんでした。その後、水球経験者でもある福原先生の顧問就任を契機として各世代が集結し、昨年復活しました。

そして今年も「プール集合！」。秋の訪れが早く当日の水温は26度。水泳競技規則に定める最適水温ですが、秋空の下で久々にプールに浸かる卒業生にとっては入水に少々勇気を要します。漸く冷たさに慣れたところで現役ＯＢＯＧ対抗戦を敢行。現役2年生は2001年生まれとのことで、世紀を超えた対決となりました。まずは競泳。葛城水

泳会寄付のフィンや水球ボールを使ったリレーも交え、現役生も普段とは一味違う経験ができました。その後は水球の試合。今年は学校のご厚意で水位を最大化していただき、水深1・7mの足がつかない状態での「巻き足(立泳ぎ)」等、水球独特の動きを思い出すことができました。

その後、会場を移して二次会となりました。福原先生から現役活動報告をいただき、来年以降も継続して総会をすることを確認しました。

☆弓道部OB会

副会長　徳村 万貫夫
(昭和45年卒)

弓道部のOB会は、毎年春分の日前後に開催しています。卒業から2年の元部長などが幹事となり、現役生の活動や大会での成績などが報告されます。自分たちが現役だった頃とは様変わりし、大活躍している現状に大いに刺激を受けています。議題が終わったあとは懇親会となり、年齢差も関係なく、楽しいひと時を過ごしています。ただ出席者に偏りがあるのが悩みの種です。幹事年度の若いOBの上は、ン十年も年上の創立間もない頃のOBとなっています。その間を埋めるOBの出席を促していきたいと考えております。

昨年、弓道部は五十周年を迎えました。その際の様子は同窓会副会長の森茂さん(昭和46年卒)が前回の同窓会報に投稿していただきましたが、今回は遅ればせながら、その時の写真を掲載していただくことにしました。OB会としては、今後とも現役生のサポートに努めていきたいと考えております。

☆ラグビー部OB会

会長　長 英連
(昭和52年卒)

2009年にラグビー部のOB会として、千葉県立千葉高等学校OB会(略称、県千葉R・O・B会)が発足以降、現役支援を中心に様々な活動を行ってきました。現役支援の活動としては、継続的な支援として、巨大弁当箱(容量4リットル)の贈呈、外部トレーニングコーチの派遣、若手OBによる練習参加等を実施しました。また、部員数が少ないこともあり、2017年の澤井組においては、県千葉R・O・B会として、勧誘についても全面的にバックアップを行って参りました。選手自らがデザインしたパンフレットを準備し、入学式で配布するとともに、新入生の校内タグラグビー大会の主催及び焼きそば会の実施、新入生の市内タグラグビー大会後の焼き肉会も実施することで、10名以上の新入部員を迎えいれることができました。

澤井組の活動としては、自分たちから積極的に行動することを目標に「革進」というスローガンを立てて、日々、練習に打ち込み、関東大会予選では、シード権を獲得し、5位決定戦にも勝利し、5位タイの成績を残してくれました。全国大会では、強豪である幕張総合高校に敗北してしまいましたが、主体的にラグビーに取り組んでいく姿勢に多くのOBが心打たれました。県千葉R・O・B会として、今後も、現役支援を中心に様々な活動に取り組んでいくつもりであります。

☆サッカー部OB会

葛城クラブ代表　川端 俊宏
(平成4年卒)

私は葛城クラブというサッカー部OBのチームの代表をやっております。葛城クラブはOBの皆さんに代々引き継がれており、現在は千葉県社会人3部リーグ、千葉市トップリーグで躍動?しています。一時期は1部昇格を目指し2部優勝や、千葉県選手権でベスト8になったこともあるのですが、今年は未勝利です(涙)

創立して70年、高校時代の仲間はもちろん、卒業したての学生からシニア手前の社会人まで、世代を超えて集まり一緒にサッカーして楽しんでいます。「生活の中にサッカーを」は先輩で恩師である畑山先生の言葉ですが、世代を超えてサッカーをし、人生の色々なステージでサッカーに触れることは、サッカーに対してはもちろん、それ以外にも、気づきや学びもその時々で変わり、先生の言葉を実感しています。皆さんも高校の仲間や先輩、後輩と集まって何か夢中になってみて下さい。

最後に、皆さんにお願いです。自分が、息子さん娘さんが、或いはご親戚がサッカー部OBだという方。1月2日に恒例のサッカー部OBの新年会があります。現役顧問をされている藤原先生の声掛けで、各世代の顧問の先生が初めて集合する企画などで大々的に開催しています。是非参加をお願いします!

学年短信

●昭和22年卒

斎藤 喜久三

【同期の絆いつ迄も】

一昨年28年定例6月第1土曜日を以て毎年開催して来た通算50回目の幕引きとなったが、出席された鈴木一郎同窓会長と鈴木政男校長も「この様な皆さんの絆がこれで終るのでは勿体ないです。毎年希望者のみでもこの日に集まられて、この米寿記念寫眞集を見ながら旧談に耽る事をお奨め致します」とのご提案に満場一致の大拍手で決定。

29年6月には連絡なしで約束通りに21名が参加、なかには大塚君、同期の鑑ともいえる横浜より車椅子での出席で、我等戦争っ子の元気印の絆には驚いた。

戦時中の入學により平和な新時代の到來は苦難を先にした想い出の分だけ同期生の新しい絆を生んで三々五々互いに交歓して米寿とは見えない諸兄の元気な話し方に会場の女店員さんからなんと「女子会の皆さんと同じ様」と誉めちぎられて一同大笑いで談笑は尽きる事を知らず、気がつけば午後一時より三時迄の定刻を30分延長して貰って終了。

一昨年米寿同期会を記念した70頁の寫眞集を昨年増刷して、行き渡らなかった同期生や先立たれた級友達のご家族にも贈呈し、我等の生涯で一番の思い出となる葛城丘で過ごした年代及び現代迄と創立百三十六年の伝統ある母校をこの寫眞集で孫子の代迄語り継がれる事を念じているものです。

毎年の同窓会報を見ていると、後輩諸兄姉の頑張って居る事を知り頼もしく思う。我等も皆さんに後れをとらず？にいつ迄も絆を大切にしたい。願わくば母校同窓会が益々盛んになる実現を期待してやみません。

●昭和25年卒

矢島 肇

現役時代から離れると会合等当然少なくなる。だから今は例えどんな集りであっても声がかかれば篤と案内状を見る。そして出かけられる限り出席に○印をつけている。会は内容によって、どうしても参加しなければならないものと行ってみたいものとはっきりとする。冠婚葬祭を除いては平服参加が多く却って服選びに苦労している。ネクタイ等は黒と白が全んどで、現役時のネクタイはタンスに皆並んで眠っている。会毎に会の雰囲気が異って楽しくもあり苦しくもある。現役時とは責任の度合が違うせいであろう。

楽しい会とは話の合う人がいる事で、世代の異る人とは話が上手く噛み合わない。会場に知った顔がいるかどうかでどんな会でも左右は決る。同窓会等大きな会より同期会等少人数の方が気が楽で集り易い。なかなかこちらの都合の良い会は少なくなった。といって同世代の集りはメンバーが激減し実行され難い。生存者の全てが健常者ではないから連絡も取れない。予定がとれないのではなく、当日の体調いかんだから、反対に元気な人は、齢をとってもそれなりに用事があるものだ。

そんな中での会合は会うだけでも嬉しい。単に集るだけでも充分だ。加齢は皆平等に、考え迄同様に進んでいる。同期の近況だ。

●昭和27年卒　二七会

会長　中村 作二

我が二七会は、隔年の6月に京葉銀行文化プラザで総会を開催して来ました。「傘寿の会」までは出席者が毎回１００名を超えていて、それを自慢にしていましたが、流石に80歳を越えた前回は78名の出席でした。

今年は開催の年になるのですが、いつも会場にしていた京葉銀行文化プラザが、3月一杯で営業を終了するということでした。千葉駅から近くて設備も良く、料金もリーズナブルでしたので残念な次第です。

それで、幹事会を開いて対応を協議した結果、高齢になっていることもあって、卒業式から66年を経た今年3月1日に開催して、総会の形での二七会は修了にしようと決めました。

その後は、気楽に普段着で集うサロンのような形式で、昔話に話を咲かせたらいいかなと考えています。

そして2年前の卒業生たちが平成の「二七会」として、我々より以上にまとまった、他の学年の範となる会になってほしいと願っています。

なお、昭和40年から始めた「葛城二七会」ゴルフ会は、50年以上続いて１４０回になりました。参加者たちは１５０回までやろうと意気込んでいます。

●昭和28年卒　二八会

日暮 正信

〝元気に　年取れ！〟

昨年の二八会・例会は4月9日㈰に開催されました。恩師、早川先生も出席され、賑やかに・と、言いたい所ですが、35名の参加は少し寂しかったです。それでも数十年振りに出席した同期生の周りには幾重もの輪が広がります。

昨年の学年短信、22年卒・米寿記念会の寄稿には感動しました。私達二八会も取り敢えずは

東京オリンピックまでと考えておりましたが、米寿記念会もそんなに遠くはないぞ!、と思いました。

早川先生から例会の終りに、「来年もみんな集まれ!元気に年取れ!」と発破をかけられました。因みに、先生は〝白寿〟を目指すそうです。

●昭和29年卒（福の会）

中村浩紹

全員が傘寿を超えた。連絡のとれる登録メンバー150名に傘寿記念の迷子札？（根付）を作成して贈呈、好評である。

6月18日、京成ミラマーレホテルで40名、12月23日の忘年会には、東武ホテルレバント東京（錦糸町）に36名が集まり、盛会であった。

本年も、6月16日㈯に京成ミラマーレホテルで同期会を開催します。

●昭和30年卒　三十年会

会長　大塚正明

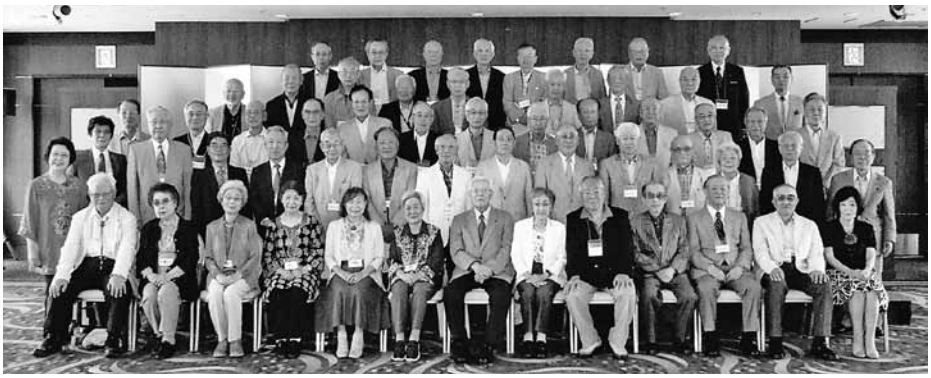
平成29年度総会は、6月3日京成ホテル・ミラマーレ16階で61人が参加して開かれ、93歳になられた早川俊一先生がお見えになり、なごやかなひと時を過ごしました。

早川先生は変わらずお元気で、「長生きしようと思ったら、ありのままの自分を受け入れて、自然体で生きること」とエールを送ってくれました。

次いで三十年会報三号に、「G組の机に私は初恋の人の名を小刀で彫った」という若々しい話を寄稿してくれた、詩人で宮沢賢治研究家の天沢退二郎君が、「初恋の人とのその後」の話をしてくれました。

一方女性の会「微女の会」も30周年を迎え、11月に14人が参加して、積もる話の花を咲かせました。

交流会は、カラオケ同好会が一番盛んで、月1回西千葉にある事務局長・早川英明君の店で例会を開き、会員は15人いてそろって上手です。実力八段の津田光司君が先生役の囲碁会も負けてはいません。ゴルフの会は、真名カントリーで年2回プレーしています、幹事役金子進一君は、2年後の84歳でエージシュートをめざす元気者です。



平成30年度の三十年会報四号には文化勲章を受章した三谷太一郎君が寄稿することになっています。

●昭和31年卒（三一会）

山中　齊

我ら三一会員は、1953年葛城台上の母校に入学した。

そして、時の政府が「もはや戦後ではない」と経済白書で国の内外に、声高らかにアピールした1956年、この年3月、若き吾らは星雲の志を抱いて葛城台を巣立って行った。

卒業20年を祝った、1976年の千葉ステーションビルには108名が、30年を祝った1986年8月には、Hニューツカモトに全国から135名の仲間がはせ参じた。

1996年11月には卒業40年を90名で祝った。

1997年2月の同窓会総会では、慣例により三一会が幹事学年をおおせつかり、105名の力を結集し、大スターの加藤登紀子さんをゲストにお迎えしたこともあって大盛会、幹事学年の責めを見事に果たした。

そしてこの総会で、霜禮次郎君が、栄えある同窓会長に選任され錦上花を添えてくれた。

2006年10月には、卒業50周年を祝ってポートプラザHに66名が集い、2015年5月には、母校の参観を兼ねて菜の花プラザHで喜寿を祝った。

その時、3年後傘寿をみんなで一緒に祝おうと約束して別れた。

今、約束の実現に向けて計画を進めている。

日時は、２０１８年５月25日㈮午後１時から場所はホテルポートプラザ千葉（ＪＲ京葉線、千葉みなと駅前）この日、元気で再会を果たせることを心から期待している。

●昭和35年卒（珊瑚会）

中島 啓三

35年卒の珊瑚会の中に「探美会」という集まりがあります。当初の趣旨は、名前の通り「美を探究する会」という高尚な会のはずでしたが、いつの間にか美術館よりも「自然を探求し楽しむ会」「街中の名所・旧跡を歩く会」になり、プラス「反省会」と称してお酒も入りながら「何らかの情報交換会」になってきたようです。その発展形として「探酒会」が誕生し、月例会で盛り上っています。高校時代はお互い顔を知らなかった間柄も、千葉高ＯＢというだけで親しくなれるのが不思議な集まりです。

最近では日本百名山の大菩薩峠から三浦半島の大楠山、数回行っている高尾山、「探酒会」とのコラボで丹沢山麓広沢寺温泉の獅子鍋、郊外歩きの石神井公園散策、玉川上水散策等様々です。はじまってほぼ15年、１５０回を超えるまでになりました。さすがに参加者は減少気味で10名以上集まることは少なくなりましたが、天候不良で中止になったとしても何となく続いていることがこれまた不思議に思えます。３年後の東京オリンピックを控え、我々も歩けるうちは何とかその頃までは継続したいと思っています。

●昭和36年卒

代表幹事 田那村 宏

昨年、同期会総会の出欠はがきの中に、後期高齢一年目だから歳を聞かれたら「後一」（高一）と答えていると書かれたものがありました。平成26年の午年記念同窓会は台風接近中の開催でした。29年、満75歳記念同窓会10月22日、ホテルプラザ菜の花にも、なんと超大型台風21号。にも拘わらず遠方の友も、59名が出席。温暖化か、気象変動が世界レベルで起こっている。

昨年7月、36会・母校をこよなく愛した豪放磊落かつシャイな鴇田昌俊氏の葬儀があり、弔辞を述べた親友長谷川友善氏から彼との最後の話を聞き涙、涙。この3年間に12名の同期が逝去、出席者全員でご冥福を祈りました。

スピーチタイムは同期の佐藤英幸元千葉高校長「千葉高の今：中高一貫校の現状など」に始まり、各々の人生経験豊かな活躍話が聞けました。「乾杯」では健康寿命を延ばそうとの発声があり、次回、「高三」喜寿記念の会を来年開催することが全員一致で決まりました。

今年の干支は戌、犬の折り紙を記念品として持参された雅な同期の友もおります。

最後に校歌斉唱、喜寿・傘寿・白寿まで同期会開催を目指そうと中締めがあり、盛会の裡、和やかに再会を祈ってお開きとなりました。

●昭和39年（定）卒

理事 三井 芳夫

平成29年の同期会はＪＲ千葉駅前、塚本ビル「かに道楽」で開催したが、《かに》が失敗でした。「蟹を食すと皆、無口に成る」あるある、これは反省です。一人だけ卒業後、10年程経ってから訪れて来たK君、コレ何！見た事のない風景の写真に、巨象が写っていました。彼は以前からホテルマン、ホテル・ニュージャパン、第一ホテルでしたが、その後がコレ、「ケニヤ・ヒルトン」。アフリカって面白いよ、今はない狩猟ツアーでした。次はロンドンに転勤だとか、それから40数年、アイツ今何してる。

会は少しの話で終わりでしたが、案内への返信葉書は全員届き、近況は分かります。最近は学校を見たいとの話が出ます。校舎内は無理でも、講堂、図書館、美術館（昔の給食室です）など、「学校の都合で決まった時間に合わせ申し込めば可能です。

これからどうする、あと10年、ランチでお茶べりが丁度良いかな。この日も千葉駅前で解散です。翌日、田倉さんより電話有り、下り内房線18時41分、一緒に乗れたよ。良かった。また来年です。

●昭和40年卒

代表幹事 小池 啓嗣

柔道部の渡邉明彦君と名簿を作成しながら始めた同期会、過去20年ほどの状況を、その開催年と参加者数）で紹介します。１９９７年１０１名、２００１年９８名、２００５年９８名、２００７年９８名、２０１１年１０１名、２０１５年９９名。会場は05年以降京成ミラマーレ、07年は60歳同窓会幹事年でした。

クラス幹事の協力で名簿整理、開催案内は一括発送して返信の宛名はクラス幹事。同期会当日の司会は元日本テレビジャイアンツナイターの花形アナウンサー吉田填一郎君、プロならではの司会進行で会場を盛り上げ

てくれます。

この同期会、二次会にも毎回参加者の5～7割が参加するので行き当たりばったりではとても無理。50～70名収容でき、価格は安く人数の確定を直前まで待ってくれるお店を探すのが毎回大変。

今までの開催は4～5年の周期でしたが、これから先は短く2～3年で行おうと、次回は今年2018年に開く予定です。

もう一つの同期会、久保木正明君と木之本省二君が幹事のゴルフ会も春秋2回開催され20名前後が腕を競います。2017年12月で第14回を迎え、今年からはこれも先が短いからと年4回となります。

●昭和40年（定）卒

OSB会幹事長　谷中勝美

【今年もOSB会一泊で開催】

昭和36年入学した当時1、2年生のクラスの仲間で結成した同窓会（OSB会）を平成29年も一泊で6月11・12日に長生郡白子町「ニューシーサイドホテル」で開催しました。5名の出席者でした。26回目の開催になります。

深夜まで近況報告など語り合い、思いは尽きることない友情を深めました。

●昭和41年卒

前幹事　永栄　潔

昨年の同期会は、京葉線千葉みなと駅前の「ポートプラザちば」で9月30日午後4時からありました。これまでずうっと8月最終土曜の6時開始だったのですが、炎暑期を避け、家路につきやすい時刻に終了をとの希望が寄せられ、更えました。古希の集いに、参加者は104人（女性22人）を数えました。三、四十代の頃、立て込む仕事に50人集まれなかったことを思うと、残すは終活のみというのも悪くありません。秋の一夕を十代に戻り、賑やかに過ごしました。

当日は、広間のテーブルを初めて二年時のクラスで分けました。従来は卒業時の組でテーブル分けしていたのですが、何かと忙しなかった三年の時より二年生の頃が懐かしいとの声が出、早速、実行した次第です。実際も好評で、グッドアイデアでした。

同期会案内の返信葉書に、「以後連絡不要」「何卒、ご放念を」の添え書きが多かったのも昨年の変化でした。世話役で協議の末、同期生全員に開催を知らせる同窓会形式は今回限りとし、以後、有志の会に切り替えることを9月の集いで諮ることとし、当日の会で了承されました。同期会の案内は10年前からメールと往復はがきの二本立てでした。出席者の95パーセントがメール利用者なので、実質的に変わりはないのですが、有志の会への切り替えには一抹の寂しさもあります。（写真は、真行寺豊君撮影）

●昭和42年会

中山康正

私達昭和42年会は3年に一度同期会を開催していますが平成29年はその年にあたり、8月26日ホテルプラザ菜の花において81名の参加、そこで約5時間会話に花を咲かせました。

さて、私達昭和42年卒業生について再びお話したいと思います。ベビーブームのど真ん中で、親達は若き時をあの戦争の中を生き延びて家庭を築けた年代です。そのせいか特に娘に対し自由な生き方と充実した教育、反面上の世代にから受け継いだ美しくも厳しい躾を授けました。我が学年一割五分程の女子学生で勉強オンリーの者は少なく、明朗快活容姿もなかなかのものです。教育、出版、藝術、政治、スポーツ等の分野でそれなりの活躍をしつつ家庭を大切に生きて来たせいか、「灰色の人生」「受験戦争」「企業戦士」かつ「団塊の世代」としてマスコミが流行語をたくさん用いて騒ぎ立てて来た中で彼女達自身は冷静でした。しかしその中で最も輝いていた数人がここ何年かの間に他界してしまいました。佳人薄命とはまさにこの事で残念でなりません。

千葉高を卒業して50年を過ぎた今、同期会以外でも地域によって、趣味によって、又社会貢献によって集まっているグループが何組かあります。昭和42年卒の私達は愛情と向上心を持って社会と関わってゆきたいと思います。先輩後輩の皆様、どうぞ宜敷くお願いいたします。

●「昭和43年卒だけが習った国語教師の本の出版」

伊藤三平

菊地久治先生は我々の1～2年時だけの在籍だ。追い出されたとの伝説も残る。

教室のカーテンを閉めさせて、

音楽を流し、朗読が始まる。記憶は様々だが『トニオ・クレーゲル』『盲目のジェロニモとその兄』『刺青』『春琴抄』『潮騒』『憂国』などだ。登場人物になりきっての声色や、刺激的なセリフもお構いなしであり、強烈な思い出が刻まれた。

卒業30年後に同期会HPを開設すると先生の思い出が寄せられる。当時はご存命であり、連絡をとった者は「追憶は懐かしいほど、虹の幻のようなもの」との返書を受け再会は拒否される。返書の半年後に先生が水道橋の路上で死去されていたことが知らされたのは3年後で、卒業後にも先生と親交のあった同期からだ。

その彼が退職を機に卒業後の先生との交流を語る中で、先生が評論を発表されていたことを知る。ペンネームで、歌舞伎と浄瑠璃の関係論や、異端文学、任侠論、血みどろ絵の考察などエロスとタナトス（死）に関する評論だ。先生に嫌悪を感じた十六歳がいて当然だった。

東北大学同窓に山折哲雄氏がおられることがわかり、氏から先生の小説が掲載の同人誌が送られる。山折先生から序文も頂戴し、刊行に向けて作業中である。

●昭和44年卒

森　茂

『悲しみ抜く！』

超高齢社会の到来です。この頃「老い方」や「生き方」についての出版や記事が目につきますが、それは私自身がそういう年齢になって来たからなのでしょう。実際、同期生逝去の報を聞くたびに、決して他人事とは思われなくて、改めて「生死のこと」、「老いること」を考えさせられることになります。

「大切な人の死が耐えられないほど悲しいのは、その人と出会えた人生が、それほど素晴らしかったから。どうしてその悲しみを消し去る必要があるだろう。どうして乗り越える必要などあるだろう。（宮澤）賢治がそうだったように、悲しみがあるから生きていられる。悲しみ抜くことこそ、大事なのだ。」

という若松英輔の言葉は、その対象を「死」に限定しない方が一層広く深く味わうことが出来ます。ブッダが道破したように、生老病死の四苦をはじめとして、多くの悲しみと苦しみは人間にとって避けることの出来ないものであり、ありのままを事実として受け止め抜くほかに手立ては無いようです。

ところで、苦楽は相半ばするものだそうですから、「楽しみ抜く」こともまた「悲しみ抜く」ことと同等に人生にとって肝要なことに違いありません。

という訳で（？）私たちの学年の次回（第6回）同期会は平成30年（２０１８）秋の開催に向けて、そろそろ準備が始まります。皆さんお元気で！

※若松英輔『生きる哲学』

●昭和45年卒

徳村　万貫夫

昭和25年～27年生まれの我々同期は全員65歳を過ぎ、世間的には「高齢者」と呼ばれるカテゴリーに含まれることになりました。同期のホームページと名簿データを管理している私には、65歳になって完全にサラリーマン生活に終止符を打った、といった連絡が届きます。メールアドレスが、これまでの会社のものから、個人のアドレスに変わった人も多く見かけます。

「同期会」は還暦の時に開催して以来ですので、もう5年以上過ぎました。それでも時々、有志で集まっています。昨年の10月には28名が集い「ミニ同期会」を開催しました。近況報告を中心に、再会を喜び、旧交を温めました。会場は同期の苦米地さんが新松戸にオープンしたカフェでした。この年齢になって、これまでの仕事とは別にカフェを開くという大胆さにみな驚きました。

昨年の9月には「三木先生を囲む会」として、3年C組を中心に14名が参加しました。恩師の三木先生も83歳とは思えぬお元気さだったとのことです。やはり自分たちだけで集まるよりも、先生に来ていただけるとなおさら嬉しいものですね。来年こそ昭和45年卒の全体同期会を開催するべく、ＳＮＳなども駆使しながら準備にかかりたいと思っています。

●昭和47年卒

藤原　真由美

昭和47年卒は、同期がさまざまな職業についており、卒業後その交流も活発に行われています。中でも、国立劇場勤務の同期にお願いして、年一回特別鑑賞会を開催、平成29年が二年目になります。国立劇場の一等席で歌舞伎観劇のあと、バックステージ・ツアーを開催してもらい、舞台裏見学、回り舞台に乗って実際に回る体験をする、花道を歩くなど、芝居の醍醐味を裏側からも味わって帰ります。

これ以外にも部活動が盛んで、ゴルフ部は同期生および家族参加により年二回のゴルフコンペ、サッカー部は地元、ジェフ千葉の応援、高校サッカーの観戦など、文武両道の活動を行っています。在学中は、それほど親しくしていなかった仲間ですが、卒業後に知り合った人も多く、話せば根っこは同じですから、思い出話も尽きません。

同期会のメーリングリストも１９９５年から運営し、20年以上になりました。大切な仲間たちと、これから先の人生をます

ます健康で仲良く実りある時間を過ごしたいと思います。これも千葉高という母校のおかげと感謝しております。

●昭和49年卒

須田　孝

誘われて、不定期開催の同期の親睦会に参加しました。その「生きてる会」は、同期会常連の集まりで、久しぶりでしたが暖かく迎えていただき、近況、家族、健康など、話は大いに盛り上がりました。その中に、62歳になり、仕事を卒業した仲間がいました。事業経営の皆さんは、60代、ますます活躍していくのでしょうが、われらサラリーマン組は60歳の節目を過ぎ、早晩、仕事を卒業することになります。仕事を離れ、これからどう生きていくのか、様々な思いの尽きないところです。

勤務先の退職者の会「葛城清風会」では、大先輩たちが多数参加され、世代を超えた親睦が図られています。皆さんお元気で、見習いたいところですが、どうやら秘訣は仕事を離れても自分の居場所がしっかりあるということのようです。教養（今日、用がある）、教育（今日、行く所がある）ですね。

先日、手話の検定試験を受けました。受験は、何十年ぶりですが、緊張感も新鮮で、新しいことに挑戦するのもいいなと思った次第です。人生はこれから後半戦、終わりよければ全てよし。同期の仲間と、絆を深め、楽しみながら、これからも元気で行きたいですね。

●昭和50年卒

幹事長　園部　創

平成29年2月4日㈯、京成ホテルミラマーレにて、千葉高同窓会・懇親会が開催された。我々昭和50年卒が還暦幹事だったので、17名の幹事団を結成し、4カ月前から準備を行った。同窓会総会に参加するようになってから14年待っての当番だった。

我々の見せ場である懇親会は、ホテルが開催する芸能人ディナーショーに引けを取らない構成、演出、タレントだったと自負する。私自身はプロとしてコンサート運営もやってきたが、今回の出来の良さは格別だった。鈴木敏也君と鈴木清史君による素人とは思えない照明技術、福長正光君制作のバックスクリーンのコラボ映像が曲にもぴったり合って凄かった。プロ司会者のような田中隆志君、和やかな空間を作り出した宮入小夜子さん。そしてミラマーレの音響・照明ディレクターによる見事な演出も見事にマッチングしていた。

圧巻は、千葉高エール。鈴木清史君の応援団口上は流石の一言。参加者全員で校歌を歌ったときは、会場が一つになった。あの志位先輩が中座されずに最後まで残り、警備も付けずに48年卒先輩方の二次会に行かれたことも驚きだった。

とにかく、来場された皆さんが笑顔で喜んでお帰りいただけたのが今も印象に残っている。当日は二次会で我々昭和50年卒の同期同窓会を開催。我が学年の宴会部長である遠藤保匡君得意のズルダラ宴会ではあったが、かなり盛り上がったから、まさに遠藤マジック。鹿毛之君の写真は笑いと涙があった。その後4次会まで続いたが、実に楽しい同窓会だった。今後は、学年のミニ同窓会が各地で開催される模様。

●昭和51年卒

同期会幹事　久門　厚

平成29年11月11日、昭和51年卒業同期の還暦同期会を開催致しました。ジュウイッテンイチイチ@銀座の合言葉のもと91名の同期が集まり、有志バンドカンレキーズの演奏並びに43年の時を経てデジタル化され蘇った高校2年時の文化祭映画を、当時の監督2名による解説付きで5台のスクリーンに映し出し堪能致しました。当時の仲間の若々しい姿や、セントラルプラザなど懐かしい千葉の街並に、一同、過去の記憶の答え合わせができました。

我々の代は30周年同期会を機にメーリングリストを作成し、現在は208名の登録があります。翌年よりクラス持回り幹事方式での毎年開催の同期会も今年で12年目になりました。またフェイスブックの非公開グループとして開設している「千葉高S51FB同期会」からは、46名中33名という高い参加率を誇り、SNSも一役買っていると言えます。

さて、平成30年2月3日の千葉高同窓会総会・懇親会は、昭和51年卒業の我々が開催運営を担当させていただきます。過去から未来への襷をつなぐ役割をしっかり務めさせていただきます。

●昭和54年卒

池田知行

平成29年8月11日、京成ホテルミラマーレにて「夏の同期会」が開かれました。3年前の正月、何となく十数名で居酒屋に集まったのをきっかけに、毎年1月3日に新年同期会として40～50名が集まっていましたが、正月は都合が悪いという方もあり、「山の日」に夏の会を開催することとなりました。新年会とはまた違ったメンバーで53名が参加し、3年次クラス別の配席から1年次クラス別への席替えもあって、卒業以来久しぶりに顔を合わせた方々はもとより、高校在学中はあまり話したことのなかった方々との新たな?出会いもあり、大いに盛り上がりました。

クラス・部活等での〇次会から始まり、本会（53名）、二次会（43名）、三次会（14名）という多数かつ長時間の参加を得て、人によっては6時間以上飲みっぱなしという体力勝負の様相を呈してきましたが、遠方から駆け付けた人も多く、卒業後40年近く経ったなかで結束の強さを再認識した次第です。

3年後には同窓会幹事学年となるわけですが、夏の会に欠席となった66名を合わせると、現在すぐに連絡のつく同期が120名程度ということで、さらにネットワークを広げて幹事年に備えていきたいと考えています。

●昭和61年卒

幹事 増田 淳

50歳の坂にさしかかった。人生百年と考えれば、まだまだ引退する年ではない。この時期にやっておくべきことは、人生の前半戦を総括することであろう。

振り返れば千葉高入学は、私にとって十代最初の試練であった。睡眠時間を削って勉強し、おそらくはギリギリで合格。県内各地から集まった同級生は、私にとって超えるべき目標であり、そのうち数人は終生の友となった。先日行われた文化祭で、一年生で同じクラスだったN君とばったり再会。高校卒業後、初めて千葉に戻ってきたばかりだと言う。二人とも幼い子を連れての来場。実に30年以上の歳月が流れていた。

しばしの雑談で、次々に蘇る記憶。正門の坂に時計があり、遅刻しそうになったら走ったこと。数学の授業が難しく、赤点続きだったこと。体育の授業で、マラソンが意外ときつかったこと。放課後、他のクラスの女子を誘って映画を見に行ったこと・・・。想い出は尽きない。

しかし、寿命はいつかは尽きる。まさに、50歳はマラソンの折り返し地点である。高校時代、全く女性に縁が無かったN君も私も、結婚して今や二児の父。人生の後半戦を何が何でも完走することを誓い合い、晴れやかな気分で千葉高の坂を下った。

●平成14年卒学年同窓会

笠井 さやか

一昨年、にわかに始まった盛大な学年同窓会。人脈の広い同級生が、自身のSNSから呼びかけ実現したものでした。初回は50人強が集まったように記憶しています。学生時代はクラスが違うと、部活などが一緒でない限り、なかなか話す機会がなかった同級生も、社会人となった今だからこそ気さくに語り合える嬉しさ。

平成29年は、8月15日㈯に銀座で開かれ、一、二年時の担任の先生にもお越しいただきました。今も非常勤で千葉高に関わる五木田先生と、当時サッカー部の監督でもあった渡辺先生です。お二人とも溌溂とされ、とても若々しく、15年の月日が嘘のようでした。当時、先生方が私たち生徒をどのような気持ちで見守って下さっていたのか、本音と面白エピソードを聞くことができ、懐かしさに新鮮な気持ちが入り混じるという、何とも楽しい時間となりました。

一方、同級生たちは実にユニーク。卒業してからの道、活躍の場がバラエティーに富んでいるのも、千葉高独特の自由な校風の中で過ごした3年間があってこそだと感じます。生徒を信じ、見守ってくれた先生方。互いを認め合い、時に意見を交わした同級生たち。そして、卒業後、社会の様々な場面で手を差し伸べてくれる先輩方。かわいい後輩たち。「こうでなくてはいけない」ということは何もない。思いっきり人生を謳歌しよう。そうして背中を押してくれる伝統を、これからも大切にしていきたいなと思います。

●平成18年卒

戸澤 庸子

平成18年卒の私たちも「三十にして立つ」と孔子が言った年齢になりました。高校を卒業してからの時間の流れはとても速く、波に飲まれたり乗ったりの毎日を繰り返していたら、いつの間にかこの年になっていたような感を覚えます。

昨年11月3日、同窓会木更津葛城会に出席させていただきました。参加した平成卒は私を含めて2名、そして私が最年少ということで最初は緊張したのですが、様々な場所で活躍していらっしゃる先輩方のお話を伺い、充実した時を過ごすことができました。

平成になって早30年。先輩方の後ろ姿を眩しく眺めているだけでよかった私たちも、後輩に背中を見せる立場になってきています。分かりやすい形で母校に錦を飾ったり、後輩の力になっ

たりすることはまだ難しいかもしれません。だからこそ、日々努力を積み重ねて、県千葉とその後輩に何かを送ることができるような人生にしたい。そのようなことを考えている最近です。

なお、今回の同窓会をきっかけに、袖ケ浦市議会議員の根本駿輔先輩が木更津葛城会のFBグループを作ってくださったので、袖ケ浦・木更津・君津・富津に在住の卒業生の皆様は、根本先輩もしくは私までご連絡いただければ幸いです。

●平成24年卒 第64期同期会

64期同窓会長　溝花 弘登

まもなく第64期が卒業して6年が経とうとしています。一昨年からは大学を卒業し社会人になる同期も増え、今年はさらに六年制大学や修士課程に進んでいた人たちも社会に出始める年になりました。

同期の多くが社会人となるこの時期に合わせ、64期は来年2019年に同期会を開催する予定です。大学からさらに様々な方面へ進んでいく、この時期の同期会は旧交を温めるだけでなく、今後のそれぞれの活動に影響する人脈を作り上げるにも良い機会ではないでしょうか。

前回の成人記念同期会ではほとんどの同期が大学一・二年生でしたが、今回は皆活躍の場を変えていて、刺激のある楽しい同期会になると期待しています。また、社会に出るのに伴って引っ越し等連絡先が変わる人も多いと思いますが、この会は今後の同期会連絡を確実に行うための名簿更新の機会でもあります。まだ同期会の準備は始まっていないため同期の皆さんや恩師の先生方にご連絡させていただくのは先になりますが、その折にはぜひ同期会への参加や名簿の更新にご協力いただければ幸いです。

●平成28年卒成人記念同期会

68期同窓会長　小池 美菜子

改めまして新年あけましておめでとうございます。

この度は、この様な素晴らしい会を開いていただき68期生一同、心から感謝申し上げます。今回の平成28年卒成人記念第1回同期会では阿佐事務局長をはじめとする千葉高の諸先輩、そして会の運営に関わっていただいた全ての皆様に多大なるご協力をいただいて開催に至り、そして成功することができたことを心から厚く御礼申し上げます。

1月6日の会では同窓会役員の皆様6名・現校長先生をはじめとする恩師21名・同期253名の合計280名の参加というとても大規模な会になりました。

今回の会では同期のみんなの協力もあり、全体写真を撮ることができたり、現千葉高校長の佐藤宰先生にお越しいただいたりと新しいことにも取り組むことができた充実した会でした。

卒業から2年が経ち、各々が別の道に進み様々なことを経験してきた2年間だったと思います。この間、定期的に会っていた仲間もいますが、卒業以来、初の再会になった同級生もあります。久しぶりの再会になるので緊張して話せないのではないかなどの気持ちが正直ありましたが、当日は廊下で何気ない会話をしていた高校時代を思い出させる様な安心感がありました。また恩師の先生も大勢、参加してくださったことで高校時代には話せなかった思い出話に花が咲いたり、貴重な経験にもなった会でした。

高校時代はたったの3年と捉えることもできますが、私たちにとって、とても重要な3年間でした。今回の会を通じてこれから同期で会う機会も作りやすくなりました。また、大勢の同期からも「とても楽しかった！」「また同期会を開催したい！」「十年後なんて待てない！」などのとても嬉しい言葉をいただきました。第2回を予定しているのは十年後、私たちが30歳になるときです。その時には、結婚をしている同期・家族が増えている同期・仕事を楽しんでいる同期・・・今よりも別々の道に進み遠い存在になっているかもしれません。しかし私たちは今回の会を通して高校時代のあの絆を一生忘れることがないと認識しました。今から10年後のみんなで集まれる会が楽しみです。その様な思いが生まれるとても充実した

同期会でした。
千葉高の仲間と出会えてよかった。
千葉高に入学してよかった。
本当にありがとうございました。

戸谷同窓会副会長のご挨拶

県千葉陸上競技部 大熊建君の快挙
―三段跳び―

陸上競技部は3年連続で関東大会に出場し、活躍しています。特に今年度は三段跳びの大熊建（おおぐまたけし・3年生）君が千葉県総合体育大会で大会記録を28年ぶりに更新する新記録（15・47㍍）で優勝し、関東大会でも優勝。インター杯出場を果たしました。国民体育大会、U20日本陸上競技選手権にも出場し、今年度の全国高校ランキング第2位です。本人から話しを聞きました。（広報委員長　能勢智・地歴八公民）

Q．このような好成績を残した率直な感想は？

A．大会記録を塗り替えたことは、本当にうれしく思っています。ですが、高校生県記録（15・70㍍）を更新できず、届かなかった23センチ」が心残りとなっています。この成績を残したことで、自分の日常生活にも自信を持つことができるようになりました。受験勉強で精神的に追いこまれた時でも、「まだまだ頑張れる」と自分自身を励ますことができるようになりました。

Q．勉強と部活動の両立は大変ではありませんか？

A．大学に入ってからは体育の専門的な勉強をしたいと思っています。そして、将来は陸上競技の指導者になってみたいと思っています。ですので、勉強と部活動の両立は私自身よい経験となっています。特に今年度は国体やその他の大会で遠征することが多く、授業を公欠することもしばしばで、ついていくのに苦労しました。受験勉強への取り組みも遅くなってしまいましたが。

Q．OB・OGの皆さんに伝えたいことはありますか？

A．千葉高はとても自由な学校で、部活動に関しても様々な練習を創意工夫してやることができました。これは先輩方がこれまで築いてくれた伝統のおかげだと思います。私もこういう形で後輩たちに「上をめざすことの大切さ」やそれに向けて努力する姿勢を見せることができたので、自分も伝統を引き継げたかなと、誇りに思います。これからも千葉高校陸上競技部は頑張ってくれると信じています。私も卒業したらOBとして、後輩たちの活躍を応援していきたいと思っています。

・・・　2学期の終業式終了後、大学入試センター試験直前の大事な時に、話しを聞かせてくれました。大熊君のますますの活躍を期待します。

葛城人脈 3

宝川紘司さん（平成14年卒）

TREASURE RIVER book cafe代表

千葉高を巣立った卒業生は3万6千名を超える。様々な世界で活躍をしている卒業生も多く、「原点は千葉高だった」という声をよく耳にする。本連載「葛城人脈」では、多方面で活躍する千葉高卒業生へのインタビューを行い、チャレンジ精神の源流を探っていく。

様々な挑戦をした高校時代

―今日はよろしくお願いします。宝川さん、生まれは北海道だとか。

宝川紘司（以下、宝川）　はい。といっても2歳までですが。その後は高校卒業まで千葉に住んでいました。犢橋中学校というところを卒業しました。中学校時代は部活と塾で忙しかったですね。高校で少し余裕ができた感じです。

―高校時代の部活動はどうでしたか？

宝川　テニス部でした。ただ、途中からあまり行っていませんが。行かなくなって、サッカー部やラグビー部の友人たちとフットサル同好会をやっていました。このときのメンバーとは、今でもよく連絡をとりあっています。皆お店にもよく遊びにきてくれます。

―学校行事の思い出は？

宝川　文化祭で、高２の時にウォータースライダーをやりました。２階の渡り廊下から中庭まで降りるやつです。この準備は本当に頑張りました。多分最後まで学校に残ってたんじゃないかな。

―そういえば、ありましたね。僕が浪人の時だ（笑）。遊びに行きましたが、すごい企画あるなーって思ったのを覚えています。

宝川　恐らくそれですね。ちなみに僕も浪人しました（笑）。

―まあ、そんなもんですよね（汗）。勉強の思い出はどんな感じですか？

宝川　物理の鎌形先生、化学の峰島先生の授業をよく覚えています。あと、数学科の部屋に『大学への数学』が届いていて、解答がない問題が結構あったんですよね。誰も読んでいなかったので、数学科に入り浸って解いていました。ただ、数学は奥が深すぎると思ったので、大学では理学部で物理か化学をやろうと決めました。高校の勉強から延長でとらえることができそうだったからです。工学部はあまりイメージが湧かなかったですね。現役の時は、阪大と信州大を受けて撃沈。浪人の時は、都内までSEGとネクサスに通っていました。東大とか狙おうと思ってましたので（笑）。ただ、当時、名古屋大学の野依良治先生がノーベル化学賞を受賞されたころで、名古屋大学に興味を持ち、最終的には名古屋大学を受けることになりました。

名古屋へ

―その後名古屋大学からノーベル賞受賞者が続きましたね。研究者志望だったんですか？

宝川　当時はそうでした。まさか飲食とは思っていませんでした。ただ、大学に入ってからは、受験勉強の疲れもあってよく遊んでいました（笑）。名古屋では割と大きな部屋に住んでいたので、よく友達を招いてパーティとかやっていましたね。それで料理の準備とかをしていて、やはり昔から人をもてなすことが好きだったんだと思います。あと和食のお店でアルバイトをしていました。そこのマスターがありとあらゆる料理に精通していて、でも提供するのは和食だけと決めている人で、その人から料理の楽しさを教えてもらったのが飲食の道に進むことになったきっかけですね。

―大学時代から料理を始めたんですか？

宝川　よく考えてみると、高校時代から好きでしたね。当時、弁当を作ってきていました。自分の分だけじゃなくて、友人の分も作ってきてたり。最初は当時お付き合いしていた相手と一緒にご飯を食べるためだったかな。でも当時そんなことやっている人はほとんどいいなかったから、そう考えると料理も高校がルーツかもしれません。で、大学に入ってもっと難しい料理に取り組んでいったというところでしょうか。

―名古屋はどうでしたか？

宝川　名古屋大好きですよ。千葉っぽい感じで（笑）。大阪に行くと東京っぽい感じですが、名古屋は程よい田舎で、ちょっと行くと岐阜や長野で自然が豊かなんです。

飲食の道へ

―大学生活も終わりに近づき、進路選択ですね。

宝川　そんな感じの生活だったので、研究はもういいやと思いまして、就職活動を始めました。当時は、広告代理店に興味があり、大手の代理店を受けて、そのうち一社から内定をいただきました。クリエイティブディレクターになりたかったんですよね。ただ、自分の本当の第一志望ではなかったので、結局内定は辞退しました。このときは本当に将来のことを考えました。自分は何がしたいんだろう？　飽きっぽい性格なので、続

けられることって何だろう？と考えていくと、やはり飲食かな、となりました。広告代理店だとお客様の反応を間接的にしか感じられないかもしれないけど、飲食なら直接感じることができそうだと思いました。自分が関わって作ったものを通して、影響を与えられる仕事、作り上げたものをちゃんとお客様の元まで届けられる仕事だと思ったのも飲食店を選んだ理由の一つです。あと、大学4年間を通してずっと飲食店でアルバイトしていて、一番頑張ってきたことだということでしょうか。

―修行を始めるわけですね。

宝川　最初は名古屋駅の高島屋に入っているキッチンサルヴァトーレクオモで2年、その後にレストランオーパという今は閉店してしまったお店で1年半修行をして、名古屋から戻ってきました。

―当時から自分の店をもつことを考えていたんですか？

宝川　考えていました。そのために色々なことを勉強していましたね。休みの日にはワインの試飲会に欠かさず行ったり、高級レストランに行ったり。千葉が好きだったので、千葉でできるところはないか1年間位場所を探していました。お金の制約もあったので、駅からすぐの場所とかではなく、隠れ家的なお店にしようと。本も好きだったのでブックカフェにしようというのも決めていて、そうすると広い場所にしたいなあ、と。バーのような狭いところじゃないかなと思っていました。

―実際にやってみてどうですか？

宝川　そうですね。修業時代が大きな店だったので、見えていなかった部分が結構ありました。実際自分でやってみると、思ったよりもルーティンワークが多いなあと。大きなお店だと、毎日同じことをやるっていう発想はないのですが、小さなお店でやっていると、6割くらいは同じことを繰り返すことになります。それをずっと続けていくというのは、合わない人には合わないかもしれません。その上で旬のものを仕入れたり、創作したりするというイレギュラーな部分が加わってくる。

千葉で店を持つということ

―なるほど。地元の千葉でお店をされていて、よかったと思うことはありますか？

宝川　やはり、長く地元にいる人が来てくれるようになると嬉しいですね。千葉に住んで40年、とかの人がたくさん来てくれるようになると、やっていてよかったと思います。最近ついに店の近くの神社（登渡神社）の神輿をかつがせてもらいました。地道に地域の掃除とかしていてよかった（笑）。

―地域に溶け込んでいっている感じですね。お客さんはご飯を食べに来ている人と、飲みに来ている人どちらが多いのでしょう？

宝川　人それぞれですね。お客さんにこうしてくださいっていうのはなくて、それぞれのスタイルで楽しんでいただきたいと思っています。ソフトドリンクで何時間も粘るもよし、お酒をたくさん飲んで盛り上がるもよし、がっつりご飯を食べるもよし。そうしていく中でだんだん自分の手元からお店が離れて、お客さんサイドにいくような感覚ですが、それがすごく面白いです。

―確かに、皆さん思い思いの時間を過ごしている感じがしますよね。今後の展開はどう考えていますか？

宝川　パン屋さんかケーキ屋さんにも進出してみたいですね。千葉近辺か都内か。あまり遠すぎると移動が大変ですが（笑）。

―そうですね（笑）。もし、後輩が飲食を目指したいっていったら、お勧めしますか？

宝川　大変なことは多いけど、やはり創造的な仕事なので、そういうものが好きな人にはいいかもしれません。あと、やはり体力は大事なので、高校時代は是非色々なことに挑戦して足腰を鍛えておいてください。

―一昨年の第一回インタビューでも、やはり体力が大事だという話が出ました（笑）。まあ、やっぱり体が資本ですからね。私も最近痛感します。今日はどうもありがとうございました！

宝川　ありがとうございました！

Profile

宝川紘司（たからがわ・こうじ）

1983年生まれ。千葉高時代はテニス部、フットサル同好会に所属。名古屋大学理学部卒業後、飲食店での修行を経て、現在、ブックカフェ「TREASURE RIVER book cafe」代表（http://treasureriverbook.web.fc2.com/）。自身の店舗経営に加え、古本やレコード、アンティークの家具、雑貨などの品々が立ち並ぶマーケット。

【会報送付希望の方へ】

会報は同窓生と母校共通の話題です。
総会などで配布のほか希望の方にはお送りします。
氏名・卒業年・住所をご連絡ください。

千葉高同窓会事務局
〒260-0853　千葉市中央区葛城1-5-2 県立千葉高校内
☎043-239-5550　FAX.043-239-5551
E-mail とホームページのアドレスは各ページ下に記載

● 個別送付のご寄付は下記宛てにお願いします。
ゆうちょ銀行　00140-6-336678
加入者名　千葉県立千葉高等学校同窓会

平成30年の同窓会行事予定

（地域葛城会の一部等）

5月27日(日)	船橋葛城会	船橋グランドホテル
6月 9日(土)	葛の花会総会	プラザ菜の花
10月 6日(土)	長生茂原葛城会総会	一茂
10月12日(金)	東京葛城会	上野精養軒
平成31年1月12日(土)		ホテルプラザ菜の花

第69期（平成29年卒）成人記念同期会

同窓会は、母校の社会人講演会に講師派遣と支援をしています。

◎千葉県立千葉高等学校

■第1学年卒業生講演会

毎年6月、総合学習の時間にその年の同窓会総会を幹事学年として担当した卒業生が、1年生に対して講演をしています。

平成29年の卒業生講演会(1年・総合学習)は、

日時　6月6日(火)

講師　永松治夫 氏 (昭和50年卒)

演題「Enjoy Your Life!」

■第2学年総合学習・外部講師講演会

― 先輩に学ぶ ―

若手卒業生が自らの体験を踏まえ大学・大学院などの進学や就職など、進路選択について情報を提供し、人材輩出という千葉高の伝統を保持発展させようと実施しています。講師は社会の中心で活躍中かつ在校生にも親しみやすい若手有志。

2年総合学習・外部講師講演会として10月24日に開催されました。

講堂での全体会の冒頭に、進行役の岡崎真氏(平成元年卒)が主旨と講師のプロフィールを紹介、続いて講師それぞれが在校中、進学先、現職などをショートスピーチ。その後分科会に分かれて履修歴、進路選択や職歴、現職の内容などのお話しに、自ら選んで参加した生徒たちとの熱心なやり取りも印象的でした。

講師は次の7名でした。

・平井　勇一 氏(昭和63年卒)
JXTGホールディングス㈱
経営企画部副部長

・岡崎　真 氏(平成元年卒)
岡崎歯科医院3代目院長

・松永　正弘 氏(平成元年卒)
(国研)森林研究・整備機構
森林総合研究所研究者

・中川　篤史 氏(平成2年卒)
元都職員・陶芸家

・東　寿浩 氏(平成12年卒)
学術出版社ミネルヴァ書房 編集者

・佐々木俊介 氏(平成12年卒)
東芝デバイス&ストレージ㈱
研究開発職

・小野口玲菜 氏(平成18卒)
東京大学特任助教

葛城だより

◎平成29年度受章者

心よりお祝い申し上げます。

(ご連絡のあった方のみ掲載)

瑞宝双光章　中村精男(昭18)
旭日双光章　深沢規夫(昭27)
厚生労働大臣表彰
霜　禮次郎(昭31)
旭日小綬章　浅野薫之(昭33)
瑞宝単光章　永田忠以(昭37)
旭日小綬章　外立憲治(昭41)

〈敬称略・卒業年順〉

◎逝去者(役員・理事)

謹んでご冥福をお祈りします。

(ご連絡のあった方のみ掲載)

池田壽雄(昭9)29年6月1日
大野健藏(昭16)29年9月15日
津島正昭(昭21)29年12月1日
内海　巌(昭33)29年11月5日
鴇田昌稔(昭36)29年7月3日

〈敬称略・卒業年順〉

◎寄付者(同窓会宛)

心より御礼申し上げます。

●昭和50年卒同期会
(平成29年度総会・懇親会幹事年度)
300,000円

●昭和35年卒 珊瑚会
58,000円

●渡辺誠治様(昭27)
10,000円

●平成29年卒同期会
12円

〈敬称略・順不同〉

編集後記

◆同窓会報第47号をお届けします。たくさんの寄稿、ありがとうございました。地域・職域などの葛城会、クラブOB会、学年同期会などの活動を紹介してくださる多くの方々のお骨折りで、今号も編集作業を進めることが出来ました。

◆今年度母校に赴任し、3年生理科系5クラスの日本史を担当しています。当初は「理系の生徒がどれくらい聞いてくれるのだろう」と心配しましたが、全くの杞憂でした。大学入試センター試験直前の授業でも授業者の一言半句をも聞き逃すまいとノートする生徒たちの姿がありました。質実剛健の気風は間違いなく後輩たちに受け継がれていることを、日々実感しています。

能勢 智(昭和54年卒)

◆初任で本校に赴任し同窓会報の担当にもなって、早いもので5年が経ちました。同窓会報の編集は私にとって千葉高校の歴史と伝統を確認する大事な作業となっています。

松井洋平(平成21年卒)

題字揮毫　辻元大雲 氏
本名:洋一　昭和37年卒